

### 出穂はやや早い！ 生育診断に基づいて遅れず・適量の穂肥を！

#### ●出穂期予測（水田農業研究所、出穂期予測 6月30日現在）

- 出穂期はやや早まる予想（表7）。
- 圃場ごとの生育状況により予想出穂期は前後するため、生育診断を行い、圃場の生育に合わせて、遅れずに穂肥を行う。

表7 幼穂による出穂期予想(水田農業研究所(藤島)、出穂期予想、6月30日現在)

| 品種名    | 熟期  | 平年出穂期 | 予想出穂期 | 平年差 |
|--------|-----|-------|-------|-----|
| あきたこまち | 早生晩 | 7月26日 | 7月25日 | -1日 |
| ひとめぼれ  | 中生晩 | 8月1日  | 7月30日 | -2日 |
| はえぬき   | 中生晩 | 8月1日  | 7月30日 | -2日 |
| 雪若丸    | 中生晩 | 8月2日  | 7月30日 | -3日 |

#### ●品種ごとの穂肥診断の方法

##### 1. はえぬき

- 出穂25日前（平年7/10頃）、窒素成分1.5~2.0kg/10aを基本とする。
- 7/10頃（10.4葉期）に生育診断を行い、穂肥の量と時期を決定する（図1）。
- 茎数700本/m<sup>2</sup>以上、又は葉色（SPAD値）40以上であれば生育過剰。いずれかの場合は、穂肥量を窒素成分1.0kg/10aに減らし、両方に該当している場合は、穂肥を行わない。

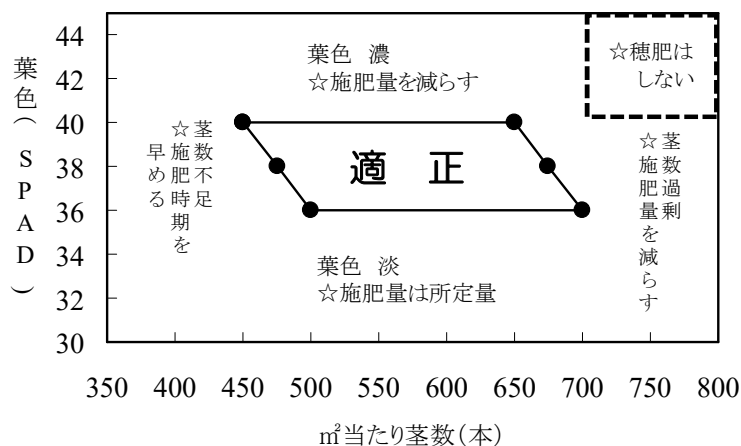


図1 はえぬきの7/10の茎数・葉色による診断と穂肥対応

表1 茎数・葉色早見表

| m <sup>2</sup> 当たり<br>茎数(本) | 株当たり茎数(本) |        |
|-----------------------------|-----------|--------|
|                             | 60株植/坪    | 70株植/坪 |
| 700本/m <sup>2</sup>         | 38        | 33     |
| 450本/m <sup>2</sup>         | 25        | 21     |

| 葉色(SPAD) | 葉色(葉色板) |
|----------|---------|
| 40.0     | 5.0     |
| 36.0     | 4.6     |

## 2. つや姫

- 穂肥は、出穂 30 日前（平年 7/10 頃）が基本。
- 7/10 頃に生育診断を行い、生育に合わせて穂肥を実施！（右図参照）。

- ① 茎数 600 本/m<sup>2</sup>以下かつ葉色 39 以下  
⇒出穂 30 日前に窒素成分 1.5kg/10a を施用
- ② 茎数 600～650 本/m<sup>2</sup>、又は、葉色 39～41  
⇒窒素成分 1.0kg/10a 以下に減肥
- ③ 茎数 650 本/m<sup>2</sup>以上、又は、葉色 41 以上  
⇒出穂前 25 日頃まで葉色が低下したら、  
窒素成分 1.0kg/10a 以下に減肥  
※葉色が低下しない場合は、穂肥を行わない

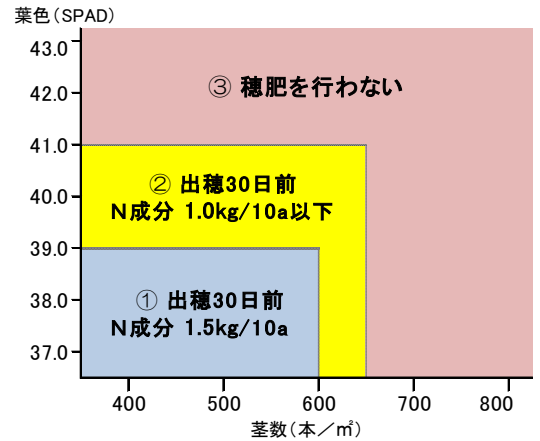


図2 つや姫の 7/10 の茎数・葉色による診断と穂肥対応

## 3. ひとめぼれ

- 穂肥の時期と量は、地力に応じて調整する（表 3）。
- 出穂 20 日前（7/14 頃）の生育を確認し、穂肥診断を行う（表 4）。
- 出穂 30～35 日前（6/29～7/4）の草丈+30cm、出穂 20～25 日前（平年 7/9～14）の草丈+15～20cm が稈長の目安となる。稈長が 82cm 以上で倒伏程度が高まるので、これを目安として対応する。

表 3 ひとめぼれの基本的な穂肥体系  
（表中の数字は窒素施肥量（kgN/10a））

|     | 幼穂形成期<br>(-20 日) | 穂孕期<br>(-10 日) |
|-----|------------------|----------------|
| 地力高 | 1.0～1.5          | —              |
| 地力中 | 1.0～1.5          | 0.5            |

表 4 ひとめぼれの 7/14 頃（出穂 20 日前）の倒伏診断と穂肥対応

| 7/14 頃の生育  |         | 穂肥診断          |
|------------|---------|---------------|
| 草丈         | 葉色（葉色板） |               |
| 66cm<br>未満 | 5 未満    | 基本どおりとする      |
|            | 5 以上    | 葉色が低下した後に穂肥する |
| 66cm<br>以上 | 5 未満    | 減肥する          |
|            | 5 以上    | 穂肥を行わない       |

## 4. コシヒカリ

- 穂肥の時期と量は、地力に応じて行う（表 5）。
- 7/20 頃（11.5 葉期）に生育を確認し、穂肥診断を行う（表 6）。
- 茎数と葉色から倒伏が懸念される場合は減肥する。減肥で対策が困難な場合は倒伏軽減剤（※特裁では使えない）の使用を検討する（表 6）。

表 5 コシヒカリの基本的な穂肥体系(kgN/10a)

|     | 幼穂形成期<br>(-18～15 日) | 穂孕期<br>(-10 日) |
|-----|---------------------|----------------|
| 地力高 | 1.0～1.5             | —              |
| 地力中 | 1.0～1.5             | (0.5)          |

表 6 コシヒカリの 7/20 頃の草丈と葉色による倒伏診断と穂肥対応

| 草丈<br>(cm) | 葉色<br>(SPAD) | 草丈×葉色     | 窒素施肥量<br>(kgN/10a) |
|------------|--------------|-----------|--------------------|
| 71         | 33           | 2300 以下   | 1.0～1.5            |
| 72～75      | 34～37        | 2400～2700 | 0～1.0              |
| 76         | 38           | 2800 以上   | 倒伏軽減剤使用            |

## 熱中症予防強化月間

定期的に水分と休憩を取りましょう

- ☑ 作業は涼しい時間帯に
- ☑ 定期的に休憩を

- ☑ 塩分と水分をこまめに補給
- ☑ 作業は涼しい服装で

